



～ともの原点 24時間 365日を支える浦安市のセーフティーネット～

浦安市障がい者等 一時ケアセンター事業

理事 竹谷 弘美

私たちが地域の中で24時間365日、“支援が必要な時に支援を届ける”事業を自らが担い手になり行っていく!!と決心をして事業を立ち上げてから11年が経ちました。

浦安市には様々な障がい福祉に関わる民間事業所が開所し、サービス提供の量も増えています。

しかし、「本当にいま支援が必要」という緊急時、「日曜日にゆっくりしたい」という保護者へのレスパイト、法事など朝早く向かいたいとき等の「早朝、又は深夜の支援」など、日曜日、祝日、年末年始など宿泊も含む預りサービスを行っているのは、浦安市障がい者等一時ケアセンター（以降一時ケアセンターと略）だけです。

平成15年の開所時から委託事業として、平成18年～平成33年度までは指定管理者として、浦安市の事業を（社福）パーソナル・アシスタンスともが運営させて頂いています。

昨年度の緊急の一例ですが、火事により自宅を失ってしまった家族の中に障がいをもつ方がいらっしゃると第一報を深夜に受け、すぐに一時ケアセンターでお引き受けし、すすで真っ黒になり、又寒さで震えていたご本人をお預かりしました。動揺している気持ちを落ち着いてもらえるように話をしながら、まずは入浴。でてきてからも明日からの生活に不安を抱えている様子だったので、いつも通り職場に通えること、家族とも会えることなどもお伝えし、やっと安心して布団の中でお休みいただきました。環境の変化に順応するのは大変なこと、ましてご本人は障がいがあり見通しが立

たない現状をうけいれていくのはどれほど不安だったことでしょう。一時ケアセンターがあったことで、自宅がわりの生活拠点として、その後も2週間ほど宿泊、他機関とも連携をとりながら、日常生活を崩さず過ごされました。

保護者の入院や手術、親族のご葬儀など緊急のご利用時には送迎も行っています。

一時ケアセンターは障がい者手帳を所持されている方、難病認定を受けている方が利用対象です。行動援護という種類の行動障害があり、手厚い支援が必要な方たちのご利用も大変多く、施設設備に関してもこだわりにできる限り配慮し、備品等の交換や工夫をしています。レスパイトを必要とするご家族のニーズやご本人にとっても快適に過ごせるセンターでありたいと考えています。昨年度は難病の方の利用もありました。



また、これから一人暮らしを始めたい、グループホームで暮らしたい等、自立を目指して宿泊訓練や生活スキル（お料理や掃除など）の習得も目的に宿泊を定期的にご利用される方も増えてきています。

浦安市が障がいをもつ方や難病の方にとって、住みやすく、その人らしく生きていける地域となるように、今後もいざという時、ご家族、ご本人が頼れる一時ケアセンターでありたいと考えています。24時間365日、パーソナル・アシスタンスともの理念の実践と、浦安市のセーフティーネットとしての役割をこれからも担っていききたいと思います!!

“ともと歩む会” 活動報告 「スポーツフェア」 & 「市民まつり」に参加しました

10月7日、小雨交じりの天気の中、浦安スポーツフェア2012が浦安市運動公園で開催されました。このスポーツフェアは毎年10月に開かれるもので、私たちは「パーソナルアシスタンス とも」のサポーター部隊である「ともと歩む会」のメンバーとして、フランクフルトなどの飲食物販売の模擬店を出しました。

今年は本イベント参加の定例メンバーが例年以上に気合を入れて、何と2度も事前打合せを行いました。打合せ場所はもちろん「地域活動支援センターとも」が運営している駅前の立ち飲み処「ほっぷ」 何を出すか、値段はいくらにするか等々、参加メンバーの熱い会話が続きます。そして、本打合せで串カツ、ハムカツ、アメリカンドッグといった新商品の採用が決定しました。当然、お店の利益に貢献する意味合いを込めて、大量のアルコールとつまみを消費しての打合せです。しかし、そんな気合いが空回りをしたのか、当日の朝は天気予報を裏切る小雨。悪条件の中での販売になりましたが、途中から天候の回復を受け、何とか最低限の販売を行い、大きな損害

なく無事イベントを終了することが出来ました。参加したメンバーの皆さん、雨の中、本当にご苦勞様でした。



一方、この悪天候の無念を打ち払うように、10月20日、21日に開催された浦安市民まつりは好天のもと行われました。残念ながら私は参加できませんでしたが、販売は好調だったということ。本イベント参加の皆様も本当にご苦勞様でした。

来年もこれらのイベントは続くと思います。これらのイベントは、事前準備等結構大変なことも多いのですが、障がい児・者への支援活動の場として非常に重要なものだと考えています。もっともイベント好きのおじさん、おばさん（失礼な言い方ですみません）にとっても、楽しい憩いの場であることも間違いのないのですが、本記事にご興味のある方は、来年私たちと一緒にこれらのイベントに参加しませんか？ 最期になりますが、来年のイベントの成功を祈願して乾杯！

【T.T】



スポーツフェア
会場

スタッフ紹介

総務部所属の4名をご紹介します

星 野：総務部で主に広報を担当しております。
とも通信の編集やホームページのリニューアル作業及び更新作業を通し、わかりやすい情報提供を心がけます。

千 田：とものケアスタッフは皆、明るくて前向きで頑張り屋さんばかりです。事務方として、ともの縁の下の力持ちになれるように笑顔でがんばります。

津 多：総務部で人事を担当しております。人員の配置や各種手続きなどで職員が安心して働けることが利用者さんへのより良いケアに繋がるということを肝に銘じて業務にあたっていきたいと思います。

古 賀：9月から出納係になりました。まだまだ慣れなくてわからないことばかりなので、周りの人たちに助けられながら勉強の毎日です。一日も早く仕事を覚えられるように頑張りたいと思います。

浦安市地域自立支援協議会 活動報告

今回は、浦安市地域自立支援協議会の7月から9月の活動状況をお知らせします。

全体会は、7月9日に開催されました。全体会では、幹事会及び各プロジェクトの活動報告、及び、浦安市の相談支援事業の活動報告を行います。浦安市の相談支援事業とは、「とも」が受託し、浦安市障がい児・者総合相談センターが実施している浦安市障がい者総合相談支援事業のことです。パワーポイントを用いて、地域の関係機関の皆さんに相談支援の活動状況を報告いたしました。

23年度の浦安市地域自立支援協議会の活動と24年度の方針性をまとめると、次のとおりです。

【幹事会】

全7回開催。グループホーム等整備事業費補助金、災害時要援護者対策、障がい児福祉サービス等についての現状報告と意見交換を行いました。24年度は、虐待防止ネットワークと関連づけた今後の地域自立支援協議会の機能と役割について検討。

【浦安市障がい者福祉計画策定委員会】

全6回開催。平成24年度から3年間の市の障がい者福祉施策の方向性を示す障がい者福祉計画を策定し、23年度で委員会は完了しました。

【事業所支援・制度プロジェクト】

全3回開催。今後の相談体制と基幹相談支援センターについて意見交換を行いました。24年度は、基幹相談支援体制の検討を中心に実施。

【就労支援プロジェクト】

全3回開催。共同受注窓口及び共同販売センターについ



て協議し、提言書を提出しました。24年度は、就労支援センターの活動報告及び評価、及び、共同販売、共同受注の仕組みの確立について検討。

【特別支援教育プロジェクト】

全2回開催。個別指導計画作成状況と教職員の研修等についての現状報告と意見交換を中心に行いました。24年度は、特別支援教育に関する保護者からの相談事例の解決に向けた協議や、支援体制の在り方について検討。

【啓発・広報プロジェクト】

全2回開催。「こころのバリアフリーハンドブック」の編集を目的とした部会も2回開催。

24年度も引き続き、障がいのある方の理解促進ツールとしてのバリアフリーハンドブックの発行と活用、障がい者週間イベントについて検討。

7月の全体会以外に、幹事会が3回、就労支援プロジェクトが1回、特別支援教育プロジェクトが1回、啓発広報プロジェクトが2回、バリアフリーハンドブックの作業部会が2回開催されました。

【浦安市障がい児・者総合相談センター 矢富】

保育所等訪問支援事業を開始しました！

6月から開始した「児童発達支援事業 ふあり」ですが、10月1日より新たに「保育所等訪問支援事業」を実施しています。保育所等訪問支援事業とは、保育所等を訪問し、障がい児に対して、障がい児以外の児童との集団生活への適応のための専門的な支援その他必要な支援を行う事業です。ふありに通所中の児童の保護者からの相談で、保育園や幼稚園、小学校や特別支援学校等集団生活を営む場所に訪問支援員が伺い、子どもの様子を観察、指導助言などが出来るようになりました。詳しい内容、利用の手順等ご質問がありましたら、是非ふありまでご連絡をください。

【お問い合わせ先】 Tel 047 (304) 8808 ・ Fax 047 (304) 8821
E-mail huali@jcom.home.ne.jp

後援会「ともと歩む会」のお知らせ

こんにちは。今年度も後援会に多数の方が継続・入会くださり、誠にありがとうございます。

長かった残暑がおわり、一気に寒くなりました。皆様、風邪などひかれていませんか？

10月は2つのイベントに参加・出店し、啓蒙活動と販売を行いました。参加して頂いた方、立ち寄ってくれた皆さん、ありがとうございました。

これから忙しい年末です。頑張って乗り越えて行きましょう。

第4回



●●● “お魚になった私” 編 ●●●

いよいよ最終回となったこの旅行記。ハワイならではの、海にまつわるエピソードから始めたいと思います。

サンサンと降り注ぐ太陽の下、エメラルドブルーにきらめく海がどこまでも広がるハワイ。こんなところへ来て波打ち際に足だけ付けて帰る、なんて事は考えられません。ホテルのプールで予行演習を済ませたら、いざビーチへ！

とはいえ、普通の車いすは使うことが出来ません。舗装路で有効な細いタイヤもビーチではすぐに砂に埋もれてしまい、身動きができなくなってしまいます。そこで、こういった場所で使われるのが『ランディーズ』と呼ばれる野外活動用の車いすです。まるで大きなバスケットボールをちょっとつぶしたような形のタイヤは、空気圧を低くして柔軟性を持たせてあるので、柔らかい砂の上でも沈むことなく転がってくれます。

しかし、いくらランディーズでも海の中までは入れません。そこで今回は、現地で『ミスター・ランディーズ』と呼ばれている男性に浜辺の移動介助と海水浴のお手伝いをお願いしました。日に焼けて、いかにも海が好きそうな彼は、波打ち際

に車いすを駐めると、私を抱えてゆっくり、ゆっくりと海の中へ。それまで遠くに聞こえていた波の音が、だんだんと私を包むように耳元で鳴り始め、泡の弾ける音まではっきりと聞こえてきます。やがて胸まで海につかる頃には、波に合わせて身体がふわりふわり。まるでお魚になったような気分です。

そんなとき「キャーッ」と悲鳴が！見るとHさんが波に足下をすくわれ溺れかけているようです。人はとっさの時に、その人の性格がよく現れると言います。Tさんは「つかまって！」と叫ぶやいなや、握っていた私の左手を溺れたように見えるHさんに差し出したのです。自分で言うのも何ですが、私は手だって足だってとても華奢です。私のことをよく知るHさんは、どんなに慌てていてもさすがに私の手をつかむことはありませんでしたが、もしこの手に彼女が本気ですがりついたら…、たぶん折れていたでしょう。

きっとTさんは普段から、私のことを普通に「同期の同僚」と思っているのだとっさに助けを求めたのだと思います。4年前の入社式で、一緒に辞令を受け取った私たち3人。当時はちょっぴり甘えん坊だったTさんも、後輩の指導に心を砕く立場になり、少し気弱なところがあったHさんは、多少のことでは動じないケアチームのリーダー格に成長しました。「とも」での私の仕事はいろいろありますが、そのひとつが利用者の立場から介助の手技・手法について意見したり、プロの介助者としてこうあって欲しいと感じた事を、介助をする側に伝えることです。私は入社してからずっと、彼女たちの介助を受けています。時には思ったように仕事が出来ず、先輩達に叱られて



Staff Column

研修旅行についてそれぞれが感じたこと

日本とは言葉も違うし、文化も違い、ハワイの人達はすごくコミュニケーションがうまく笑顔で対応してくれました。言葉は違うが話をしなくては行きたいところにも行けないし困ったときに何もできないので話をしようという気持ちになりました。この気持ちを忘れずに今後の仕事に繋げて行きたいです。
【田久保 恵】

江里さんと一緒に海外研修を使わせて頂き、ハワイのバリアフリーの状況や環境を学ぶことが出来ました。ヘルパーとしてこの経験を生かし、利用者さんの活動の手助けができればと思っています。【林 あかね】

ハワイの現地の方達が、言葉の通じない私のことを受け入れ、理解しようとしている姿勢が何よりも嬉しく、私自身も喋れない英語でも伝えようと努力することができました。海外研修だからこそ、チャレンジし、体験できたことだったと思います。【百海 美帆】

3人で肩を落とすこともありましたが、それでも同僚としてお互いに励ましあいながら、一緒に社会人として成長してきたと思います。

気がつけば水底に足が届いたHさんが、私たちに照れ笑いをうかべていました。落ち着きを取り戻した同期3人、ゆっくりと寄せて返す同じ波に揺られていると、みんなの気持ちまで同じ周波数でシンクロしているような、心地良い、不思議な感覚になりました。ただ、ひとりだけ海に入らずに岸から私たちの様子を見守っていた1年先輩のHYさんの心臓だけ、ドキドキドキと早い周波数で波打っていたそうです…。いつも心配させてご免なさい。

夜は開け放した窓から通り抜けるハワイの風をご馳走にしながら、ガールズトークに華を咲かせて過ごしました。仲間と一緒に旅をするからこそ味わえる、とても幸せな時間でした。

滞在中、疲れのため夜間に熱を出したこともありましたが、でも日本にいるときよりも眠りが深く気持ちよかったのは、窓から聞こえてくる波の音と、仲間達のはしゃいだ声が耳に残っていたからかもしれません。

今回の研修旅行では、重い障がいを持つ私自身の希望

をどこまで叶えられるのかを試すことで、他国のバリアフリーの状況を知ることができました。また、コミュニケーションの大切さを再認識する良い機会にもなりました。日本から用意していた英語カードも役には立ちましたが、なによりも勇気を出して伝えようとする姿勢が、相手の心を動かすのだと解ったことは、日本でも大いに役立つと思います。私が自分の意見や希望を伝えようとするとき、同時に私は相手の気持ちにも触れようとしている。そんな自分に気がついた時、「他国での普段と異なる経験を通じて視野を広くする」という研修の目的を達成できたと感じました。同僚達も同じ感想を持った様子で、日本に帰ってきてから4人とも、以前より積極的に人と関わるようになりました。障がいがあっても、「積極的に出かけようよ」と改めてみんなに伝えたいです。

お伝えしたいことはまだまだありますが、4回にわたってお伝えした旅行記も、ひとまずこれでお終いです。今までお読み頂いて、本当にありがとうございました。今回の旅行で少し成長した私たち（と本人達は思っています）に、これからもご指導と暖かな応援をよろしくお願いいたします。

江里さん Profile

22歳。寝かせておくとうとう寝たきりになってしまう重度心身障がいがある。自分の身体に合わせて作成したリクライニングとチルト機能が付いた車いすを通常は使用しているが、飛行機や車を使っていく旅行などにはバケット式の車椅子を使用。吸引器、酸素飽和度モニタ、バイパップ（人工呼吸器）、吸入器、買ろうのグッズ（シリリングやカテテル、流動食）など、どうしても持っていかなければならない機器は数多い。性格は活動的で好奇心旺盛。お茶目。日本の47都道府県めぐりを制覇し、その体験を近々ホームページで公開する予定。今回は47都道府県旅行の発展的活動として海外旅行に挑戦。

この旅行記は平成23年10月末～11月に行ったハワイ旅行を元にしてしています。障がいを持った人の体験や感じたことを連載でお伝えします。
内容については本人や介助者等に丹念に聞き取りをして代筆しています。

How to 移動編

【注意書き】 障がいや状態はひとり一人違いますのでこれはあくまでも江里さんの場合であり、今回のハワイ行でのことです。

【旅を楽しむために必要な道具たち】

十数年前、福祉機器展でランディーズを見つめ、多くの人が利用できるようにと、「浦安共に歩む会」でお願いして浦安市にランディーズを購入していただくことで、障がいがある市民への貸し出しが始まりました。おかげで山登りや海水浴など、車いすを利用する障がいがある方々もたくさん体験することができています。ハワイでは、ハナウマベイなどビーチに数台用意されているところもありますが、できれば、ふらりと出かけたときに利用できたら便利だなあ…とっていました。今回は、ホテル経由で一週間単位でレンタルができ、木陰に吹き抜ける



風が気持ちの良い大きな公園の芝生の上や海辺を散歩するなど、普段は舗装された道路しか歩けない本人もみんなといっしょに伸び伸びハワイの自然を身近に感じることができました。そのほか、呼吸の悪い時や逆流などで背もたれを起こしておく必要があるためギャッジアップができる電動ベットもレンタルしました。排痰を行うためのうつ伏せ用具はホテルの枕やタオルをたくさん借りて行きました。レンタルやあるものの工夫でなるべく日常と変わらない体のメンテナンスを心がけることで旅を楽しむことができます。

発行：社会福祉法人 パーソナル・アシスタンス とも
〒279-0022 千葉県浦安市今川1-14-52

〈編集後記〉個人的にも楽しみに読んでいた「バリアフリー旅行記 in Hawaii」もとうとう最終回…最後となるとちょっと寂しいような気もしますが、いつにも増して読み応えのある楽しい内容になっています!!【S】